

## コミュニケーションの問題とその対応

認知症が進行すると、自分の気持ちを上手く言葉で表現できなくなったり、相手の話を十分に理解できなくなることがあります。

認知症の方と上手くコミュニケーションをとるためにはいくつかの工夫が必要です。

- 1 できるだけ言葉数を少なくしてシンプルな表現で伝える。
- 2 手や体全体の動きを使って、表情豊かに会話する。
- 3 相手の表情や体の動きから言いたいことをくみ取る。
- 4 ゆっくりと話ができる環境や、楽しく会話できる環境を整える。

※例え間違った言動や行動があったとしても否定せず受け入れる余裕が大切です。周囲の温かな見守りや適切な援助が「心のバリアフリー」につながります。



## ご相談ください

認知症が進行した場合でも、「食べる」という行為は最後まで残っていることが少なくありません。また、食べるという行為やコミュニケーションは人としての尊厳にもつながる大切な行為です。

わたしたち言語聴覚士は、人生の最期まで口から食べることや、その人らしいコミュニケーションを支援します。



食事やコミュニケーションのことでお困りのことがありましたら、かかりつけ医やお近くの言語聴覚士にご相談ください。

## お問い合わせは…

一般社団法人 **石川県言語聴覚士会事務局**

〒923-8551 小松市八幡イ12-7  
やわたメディカルセンター  
言語療法室内

E-mail : [info@st-ishikawa.com](mailto:info@st-ishikawa.com)

<https://st-ishikawa.com>

# 認知症

—食事とコミュニケーション—



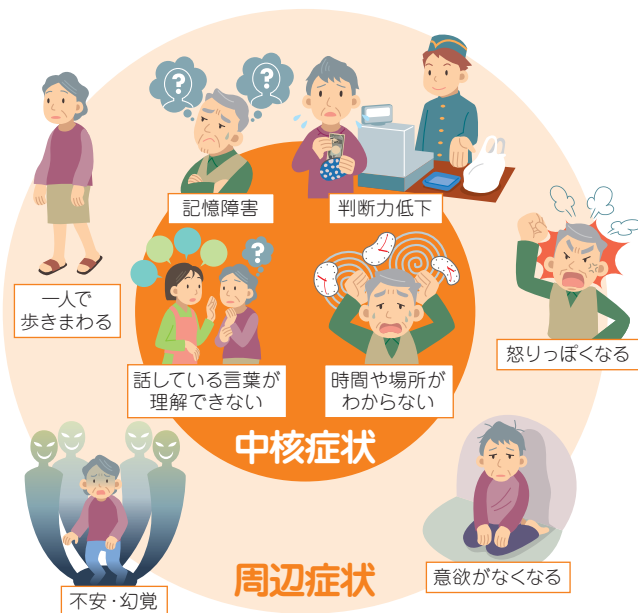
## 認知症とは

さまざまな病気が原因で、徐々に記憶力や判断能力といった脳の機能が低下し、日常生活が困難になってくる状態です。



## 認知症と食行動

認知症が進行すると、記憶力の低下や日時がわからなくなるといった「中核症状」の他に、妄想や徘徊といった「周辺症状」がみられることがあります。「周辺症状」の一つに「食行動の異常」があります。



その他：イライラ、興奮、暴力行為、妄想、うつ状態、自発性低下 など

## 食事の問題とその対応

認知症が進行すると以下のような食事の問題がみられることがあります。



### 適切な対応は

- その行為を否定せず、なぜそのような行動が起こっているのか理由を考える（例：食事の時間であると認識できない、食器の使い方がわからない、など）
- 個々の性格やそれまでの生活を考慮し、その状況に適した声かけを行う
- 食事に集中できる環境や、使用する食器にも配慮する（馴染みのものや無地のものなど）
- 食事形態を調整したり、食事に適した姿勢に整える



など

※認知症のタイプや進行度により、食行動の現れ方やその対応も異なります。お困りの際はかかりつけ医やお近くの言語聴覚士にご相談ください。